

令和4年8月26日

議員定数等調査特別委員会

阿久根市議会

1 会議名 議員定数等調査特別委員会

2 日時 令和4年8月26日（金）

午後2時20分開会

午後2時53分散会

3 場所 議場

4 出席委員

岩崎健二委員長、牟田学副委員長、竹之内和満委員、
川上洋一委員、濱門明典委員、白石純一委員、
濱田洋一委員、竹原信一委員、仮屋園一徳委員、
中面幸人委員、木下孝行委員、濱之上大成委員、
山田勝委員、濱崎國治委員

5 事務局職員

次長兼議事係長 上脇重樹、議事係主査 東岳也

6 会議に付した事件

本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査について

7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

○ 本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査について

岩崎健二委員長

ただいまから、議員定数等調査特別委員会を開会します。

本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査を議題とします。

前回の本委員会において、結論に向かうために、調査検討の期間を設けた上で、各委員の御意見を伺うこととしました。

前回から本日までに1か月余り期間がありましたので、各委員におかれましては、御意見をまとめておられると思いますので、本日、御意見をお伺いします。

なお、最終的には議員の定数、報酬、議員活動、なお、議員活動については主に政務活動費のことになると思いますが、この三つの事項に分けて結論を出すということになると思います。

しかし、ただいまからお伺いする御意見の御発言に当たっては、例えば議員定数を削減することとあわせて報酬を上げるべきであるとか、また、政務活動費の制度については創設はしないけれども相当する額の報酬で手当すべきであるなど、これはほんの一例です、私の例ですから、この三つが関連した御意見になる委員もあろうかと思えます。

したがって、本日はこの三つを分けずに御意見をお伺いしたいと思えますので、御発言のときは、議員定数についてはこう考えますであるとか、議員定数と報酬についてはこう考えますなど、三つのどの事項についての御意見であるのか分かるように、御意見をお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、どなたからでも結構です。御意見をお願いいたします。

牟田学委員

まず、議員定数について申し上げます。阿久根市と人口が似ているところ、鹿児島県内で。今、その資料を見ておりますと、枕崎市が2万479人、阿久根が1万9842人、垂水が1万4038人、西之表が1万4954人という人口なんですが、その中で、西之表市が16名、垂水市が14名、枕崎市が14名、阿久根市が現在15名ですけれども、私は、議員定数を1人下げて14名にすべきではないかなと思います。

また、議員報酬については、これも類似の市町村を見る限り、やはり、阿久根市より1市だけちょっと安いですけど、ほかには阿久根市の報酬よりは少し上がっていると思えます。阿久根市にしても、議員定数を1削減した場合には、やはり若い人たちが立候補しやすいような環境もつくりたいと思えますので、報酬に対してはやはり上げるべきかなと思います。

あと一つ、政務活動費については、資料を見れば、全市町が行われているわけではないので、政務活動費については据え置くことが大事かなと思います。

濱田洋一委員

ただいま牟田委員がおっしゃられたこととほぼ同じなんですが、私としましては、ま

ず議員定数でございませけれども、類似の人口の市と比較した場合、やはり1名減の14名ということが望ましいのではないかと思います。

次に、報酬額についてですが、私自身もこの議会の中で一番若いと言いましても、もう50半ばでございませ。そういった中におきまして、やはり30代、40代の若い方々にぜひ立候補していただいて、この市議会の活性化に一役かっていただければ大変ありがたいと。新しい若い考えと我々中堅の考え、60代も含めてですけれども、そして、先輩方のいろんな考え方をいろいろ議案等においても議論をした中で、よりよい阿久根市にもっていくためにも、若い方が立候補できる報酬、幾らか報酬額を上げた中でのことが非常に望ましいのではないかと私自身思っております。

それから、最後に政務活動費のことでございませますが、私は必要ないと思ひます。議員報酬のほうが、幾らか分かりませけれども加算ということになれば、政務活動費については必要ないと思ひます。

中面幸人委員

私は議員定数につきましては、1名から2名減。

議員報酬については、市民が決めてくれたら、市民が納得いく金額で私は結構です。

政務活動費については、私はいりませ。政治を勉強したい人は、自分のお金でいけばいい。

濱門明典委員

議員定数に関しては、今度4月が改選なんですけれども、今の状況でもあれだから、議員定数は2名ぐらい減して。4年後のことを考えたら2名ぐらい減でいいと思ひます。

それで議員報酬に関しては、いろいろありますけれども、市民感情にしてみれば、そんな議員報酬を上げなくてもいいと思ひます。

それと政務活動費に関しては、何年か前、いろいろと話題を呼びませたけど、廃止にしたんだからそのまま廃止でいいと思ひます。

仮屋園一徳委員

議員定数については、前回のときに1減ということで15名。今回についても1減、14名。もう先ほどから言われていませように、人口が同じようなところと比較しませるとそれでいいのかなと思ひます。

報酬については、議員定数を減する見返りじゃありませんけれども、やはり、今まで意見があつたように、若い人が出てきてもらって、議会の活性化を図るためにも、最下位クラスではなくて、少しずつでもアップするべきではないかと思ひます。

それと政務調査費ですけど、政務調査費は以前あつたのだけれども、阿久根市は現在ないということで、また議員の方もその辺はあまり知られない方もいらっしやいませ。そういったことで、議論も大事ですけど、私としては、行かない人は行かないでいいわけですので、私なんかみたいにもう歳をとつた議員は、行かないというよりも行けない部分も多いかと思ひます。しかしながら、若い人が増えてくると、どんどん先進地とかそういうところに行って、勉強して来るのも一つの手かなと思ひます。今すぐには復活はできなくても、そういった面で政務活動費もできれば復活して欲しいなと思ひます。

竹之内和満委員

まず、議員定数についてなんですけど、現在15ということで、3年前に16から1減して15人になつたと思ひますが、やはり偶数でないと、いろんな議決の時に、均衡した場合

に困るんじゃないかということで、1減、14でいいかなと思います。

報酬についてなんですが、報酬については、1減した分の報酬をアップしていいかなと思っております。先ほど皆さん言っているとおり、若者が議員になってもらいたいというのと、また女性議員も増えてもらいたい。そういう意味合いで1減した分の報酬アップがいいと思います。

政務活動費については、今までどおりなしでいいかなと思います。

木下孝行委員

私の考えは、定数については、1減でいいかと思えます。

報酬については、約4年、3年半前に定数を1減しております。そのときに、報酬についての議論もありましたけど、一応、断念をしたというようないきさつがございます。そこで前回の1と今回の1減、いわゆる2人分の報酬を議員報酬のアップの財源に考えたかどうかと思えます。そして、鹿児島県内も含め小規模の3万以下の自治体で、町村もあわせてですけれども、給料が安いから定数が足らなくなった、議員定数が足らなくなった、無投票でなった自治体がかかなり多いと聞いております。鹿児島県で言えば枕崎市、隣の出水市もそういうパターンがありました。これは一つに、議員報酬の低さだと私は思っておりますし、若い人たちが出る環境が、そこにも一つ問題があるのかなと思っておりますので、報酬は上げるべきだと思っております。

政務活動費においては、約13年前には阿久根市にもありました。現在の議員で政務活動費をもらった経験がある人は、竹原議員と山田議員と私と濱之上議員。

〔発言する者あり〕

そうですか。その対象になったのは4人おります。そのときに問題になったのは事実です。しかし、そこは各議員がしっかりとモラルを持って、使いたい人が使う、そういった活動費が私は必要だと思えます。これは即座にする必要もないけど、今後考えていく余地はあるのかなと思えます。

竹原信一委員

まず、政務活動費についてなんですけども、議員が活動するためにお金が必要、そういった場合には、議会としてお金を持っておいて、必要に応じて請求する。承認を受けてそれを使うという形にしていけばいいのではないかなと思えます。最初で皆さん全部に配ってしまうから不正というか、おかしいことが起こるわけですから、その運用の仕方を考えれば実現することも可能だと思えます。

それから、定数及び報酬についてですけれども、一番大事なことは市民の暮らしではないでしょうか。そして、この議員の定数及び報酬というものと市民の暮らしの向上、あるいは低下を止めるということの関連性というものは、実は明らかになっていないんですね。

議員の報酬上げれば市民の暮らしがよくなるのか。定数を増やせばよくなるのかというそういう証拠は一切ないと思えます。

今後の議員の定数の在り方については、市民の皆さんがどのように考えているかということ、今回は阿久根市ではデータをとらなかったわけなんですけども、枕崎市では結構詳細に取っていて、それは市民の意識として非常に参考になるものだと考えます。枕崎市は人口が阿久根市よりちょっと多い。減り方もちょっと少ない状況で12名にされたわけですね。多分、大方の市民の認識としては、それよりも少なくてもいいんじゃないか

というふうに言われてしまうのではないかと私は思います。そこを私たちが考えて、その程度、12あるいは11でも。取り組むべきではないでしょうか。

山田勝委員

私は、今日傍聴の方もいらっしゃるということですので、この方にも聞いて欲しいのですが、これほど阿久根市議会議員及び議会に市民が注目をしてくれるというのは、ありがたいことです。それであれば、そんなに思ってくれるのであれば、あなたも議員になって来てくださいよと私は申し上げたい。私たちは、こんな阿久根をつくりたい。あんな阿久根をつくりたい。こういう理不尽なことがあったから私は市会議員に出るよと出てきました。そういうことはたくさんあります。そういうことがないとならない。腹が立たないとならない。

だから、これほど、選挙を一緒にすればこれだけ安くあがるんだというようなことで阿久根市をどうするんじゃないかと、それほど興味あるんだしたら、まず議員に出てきて欲しい。出てきて話をして欲しい。それが第一。お願いしたいんですね。

それから、議員定数については、私は少ないからいいということないですよ。でも、こういうことだから1名減の14名はやむを得ないと思っています。

それから議員報酬については、安いからいいという品じゃないです。公務員給料は毎年毎年上がっています。議員の給料は、議員を批判すること、けちをつけることからスタートするから皆言えない。でも現実には、公務員の給料が上がるのであれば、議員の報酬もやっぱりそれなりに見てやって、頑張ってくれよという気持ちで私は議会議員も見てほしい。そして、私はこんな阿久根をつくりたいんだ、一緒にこういう市民のためになりたいんだと思って、市会議員に立候補したいという人がたくさん出てくるようにお願いをして、委員長報告にしてください。

濱崎國治委員

この前の選挙のときに16名から1減ということで15名になりまして、これからいきますと、人口が非常に著しく減少している状況の中で、来年の4月には、少なくとも1名減。その次のまた4年後には、人口を見て検討すべきだなと思います。区長アンケートによりますと、16人とした人が2名、15人とした人が17名、14人が14名、13人が3名となっているようでありまして、14名と15名がほぼ均衡した、そういうアンケートが出ているようです。ただ、他市の状況あるいは人口規模等を考えますと、どうしても1減はやむを得ないのかなという気がいたします。

また、報酬につきましては、よく報酬が低いから、なかなか若い人が出きらないということも聞きます。そこで、今、枕崎市は12名ですけれども、14名にしたときに27万5000円ということで、阿久根が26万3000円ですので、出水が30万3000円です。それからしますと、やはり議員活動をするにしても、それなりの報酬は給付すべきじゃないかなと思います。特に、これまで執行部は、特別職報酬審議会の諮問をするときに、白紙諮問をしているようでありますけれども、これを今回は額を示して、この額でどうでしょうかというのを執行部に申入れをして、少しでも報酬を改定されて、出やすい、活動しやすいという議員報酬を求める必要はないかなと思います。

それから活動費の件ですけれども、議員報酬を仮に今回上げられたとしたら、今回は活動費については遠慮といいますか、先延ばしして、1年後にこれをまたどうしようかということで検討されたらどうでしょうか。

白石純一委員

私も人口減少の中で、議員定数を減らす方針は避けられないなと思っております。そこで議員定数の新たな案ですけれども、私も当初は1もしくは2減と考えておりましたが、枕崎市も市民アンケートをもとに12にされた。私どもは、市民アンケートはなしで区長のアンケートに基づいて、区長アンケートの中で一番多いのは14、つまり今より1減ということでした。しかし、枕崎の市民アンケート、恐らくこの市民アンケートというのは、枕崎市、阿久根市、非常に似たような人口規模、そして、まちの産業も似たようなところですので、私の想像では、阿久根市でも、もし市民アンケートしたら、同じような、市民の希望は12というのがかなり多いのではないかという気がします。当初、私は1もしくは2とも考えていたんですが、全体でやはり偶数というほうが後々の問題も避けられるので、思い切って12ということも十分考えるべきではないかなと。

その際に、報酬のことですけれども、15を12にもしするのであれば、あるいは13にすると。大きく定員を減らすことで、報酬についてはかなり大きく上げるということを検討できるのではないかなと考えております。議員定数を大きく減らした。そして、報酬を大きく増やしたということで、市民の関心、新たに立候補する方も増えていただけないかなと思います。

政務活動費については、その報酬を大きく上げることによって、私は、政務活動費はまだ採用しなくてもいいのではないかなと考えます。

濱之上大成委員

定数から申し上げますと、まず奇数であるということは、非常に無駄が多い。つまり、偶数でありたいということを申し上げます。そこで1減か3減の14か12名にすべきだろうと思っているのですが、極端に少なくすることは非常に無理があるかもしれませんので、取りあえず1減。もしよろしければ3減の12名にと思う一人であります。

そして報酬。私も39歳で針のむしろになった思いで挑戦しましたが、もう大変な報酬でした。これを考えると、やはり若い人にも出て欲しいという思いがあるとしたら、できれば最低30万は欲しいなと個人的な思う一人であります。もちろん私のことじゃありませんが、最低でもやっぱりある程度の報酬をやらないと、やっていけないんだよということを申し上げます。

先ほど木下議員がおっしゃった、政務活動費。私はやってもいないのに、やったみたいで足を引っ張られて。山下の方でしたがね。結局、私は何もないということで結果は出ましたけども、そういうふうなやり取りをする人間が、やからがいるということは、非常に寂しい、わびしい阿久根市民だなというふうには思っているんですが、それについて政務活動費は取りあえず、できれば活動費というよりも、報酬を上げていくことを念頭に置いていただければなと報酬審議会に訴えたい一人であります。

もしよければ1減の14名もしくは12名、報酬は30万を希望して終わります。

白石純一委員

言い忘れたので、つけ加えたいと思います。政務活動費によって、その政務活動は本当に割り当てられる分がなくて大丈夫なのかという点の御心配、懸念もあるかと思いますが、竹原委員からも出ましたけれども、議会には研修費というのがございますので、その中から、個人で希望をすれば使えるのだよという裁量をちょっと多くしていただいて、そこで政務活動に充てるということを、一つの案として考えられるのではないかな

と思います。

川上洋一委員

定数からいくと、皆さんが14と言えば14で折れなきやいかんでしょね。

それと議員報酬は、私も年金をもらう年ですから、はっきり言って年金のない人たちが生活できる範囲の。選ばれし人間ですからね。クレームを言うのは簡単ですけど。そこにはやっぱりいろんな政治活動をしたり、いろんなことに出ていったりするわけですから、勤めている人から見れば、お前ら楽だな、お前らは楽な商売しているじゃないかと言われるけど、そういう人から見ればそうかもしれんけど、なってみれば結構シビアな部分もあるよなど、私はそう思います。だから、やっぱり報酬は上げてやらないと。年金をもらえなくても生活ができるぐらいまで。我々はもう年金受給者ですから構わないけど、そういうふうに思っています。

それと政務調査費は、報酬が上がればおのずと出せる部分もあると思います。

それと報酬に対してすごく敏感に反応される方がいらっしゃいますけど、例えば国民年金の方は決まっていますよね、国からもらう年金。私は、だったらあなた、もしかすれば厚生年金だけど、あなたは自分でかけたっていうけど、それをもし国民年金に置き換えられたらどうするというふうに問いかけたい部分もあります。やっぱり、そこに上がってこそ、その報酬をもらえる立場にあるわけですから、それをただ何もしないで、ただ、高いの低いのと言っているだけで。一般人はもっとお金を稼いでいる人いっぱいいます、世の中には。だけどその人たちはその人なりに努力しているわけですから。私はそういうふうに、逆に報酬が高いとかいう人に対しては、市民受けするコマーシャルかなというぐらいにしか思っていないです。

岩崎健二委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ないようですので、これで御意見を伺うことは終了します。

本日出ました御意見を委員長においてまとめた上で、結論に進みたいと思います。

したがって、結論の取りまとめについては、日を改めて行いたいと思います。

また、仮に定数を減らす、報酬を改定するというには条例の改正が必要になります。

報酬につきましては、市長が提案する場合は特別職等報酬審議会の意見を参考にしなさいという文言があるようですが、議員が自ら提案する場合はその条項はないようです。

そこで、議員が自ら条例改正を提案するか、あるいは市長にお願いして執行部提案とするかは、また後日、皆さんと検討させていただきたいと思います。

また、報酬を仮に上げるとすれば、条例改正の場合は、額を示さなければなりません。この額等につきましては、委員長において提案をさせていただきたいと思います。もし上げるということであればですよ。

それをもって、皆さんに御審議をいただきたいと思いますが、異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、開催日については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、本日の議員定数等調査特別委員会を散会します。

(散会 午後2時54分)

議員定数等調査特別委員会委員長 岩 崎 健 二